おりばつかひといふは、盤に向ふと其まゝ何の心得もなく、骰子の出るまゝにして、あたるを幸に世をわたる、これ愚將の下に莅むにたとへしものなりとぞ、

〔窗の須佐美追加下〕青蓮院宮にや慥ならず、幼き宮方に中院前內府通茂公御後見なりしが、常に棊雙六を制せられけり、或時參られしに、將棊盤の有しを見て、家司坊官御招、かねて申せしに、何とてか樣の物を置けるぞ、はしたなきわざは、本より惡しけれど、たとひ有ても御年もゆきぬれば、御心付有て止事有者なり、是ほどの類はさして惡事に非が故、其事に馴、空しく月日を過し、學問御修行の御志すさむ者なれば、第一の惡き物に社有とて、忽退られけり、公の言誠に確言にてぞ有れ、

〔傍廂後編〕將棊

門弟桐麻呂は、越後新發田の人なり、我方に來りて種々物語のつひでに、家なる小兒どもの戯れわざにも、將棊はきびしくいましめ置けりとなり、其故を問へば、駒は取りたるは戰場にて敵を討ち取りたる趣なり、其とられし駒、敵方の兵となりてはたらくは、表裏二心の不忠ものなり、さる不正のなぐさみせんより、外の戯れあまたあるべしとて、いましめたりとなり、いかにもさる事なり、

〔隨意錄四〕瞽盲無局馬、而口相言以善將棊者、往々有焉、然圍棊則唯口相對者、未嘗之見也、

〔諢話浮世風呂前編下〕午後の光景

後兵衛今飛車角二枚渡したもんだから、弱り切たア、洒落も出ねへ、先飛車と角で將棊は指ぬッ、こつちは王を取やすッ、ソレ王手、後そこで合馬サ、ヲツト待たり、先きたねへ將棊だナア

後銀は惜い、こゝは桂馬で、ソレそつちが王手だ〳〵、先いま〳〵しい奴だ、やつはり銀にしておけば能のに、後へゝン妙手を指てナ、サア逃ろ〳〵、能か〳〵、逃たナ、そこで何を打てやら